

◆「新しい川崎」メール版◆

－2026年2月3日第214号－

<目次>

※新春企画・<2026年、わたしの希望

- 映画「サイレント・フォールアウト」が教えてくれる「希望」
- ◆ 南武線高架化事業と立ち退き問題
 - ① 2/7 スパイ防止法の成立に反対する市民集会
 - ② 2/10 市民要求実現アクションの準備のためのオンライン交流会
 - ③ 2/12 2026年第1回市民要求実現アクション
 - ④ 2/28 ゆめシネマ「マヤ一天の心、地の心一」
 - ⑤ 3/14 市民アカデミー SDGs 講演会・緑地と文化
 - ⑥ 3/15 原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会&デモ

★ 編集後記

- 映画「サイレント・フォールアウト」が教えてくれる「希望」

衆議院選挙は早くも後半戦となりました。

高市首相の「くらし後回し解散の大義」や、「消費税どうする」などが争点として浮上しています。

その一方で、高市首相の「私への白紙新任投票」とも受け止める発言がとても気がかりです。

選挙結果が「与党過半数」となれば、あの高市首相は「非核三原則の見直し」や、12月の官邸幹部の「日本も核兵器を持つべきだ」という発言の方向に大きく動き出すのではないかと。そんな不安が消えません。

昨年のトランプ大統領の「核実験再開」発言もまた大きな不安でした。

こんな不安が広がる中で、1月31日、映画「サイレント・フォールアウト」の上映会があり、参加してきました。

主催は、「NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所」と「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」です。

<映画の印象は圧巻でした。>

映画は、1951年からアメリカ国内で始まった100回にのぼる大気圏内核実験によって北米大陸全域が放射能汚染され、多くの人々が被爆し、死者がでた事実を、生存者の証言で明らかにしていきます。

また、南太平洋の水爆実験は、さらに広範囲の地球上に核汚染は広がっていたのです。

トランプが核実験を再開すれば、核兵器を使わずとも、人類は終わることが明らかになることが深く伝わってくる映画でした。

私たちは今、大変な危機、そして、大きな曲がり角に来ている。

<映画が語りかける「希望」>

しかし、この映画は、私たちに「希望」も語りかけます。

核実験による核物質の拡散は、牧草→乳牛→牛乳→子どもたちという連鎖で、汚染されたミルクを飲んだ全米の子どもたちが被曝したのです。医師であり母であるルイーズ・ライスたちは、「乳菌の調査で核物質汚染を証明できれば核実験を止められるかもしれない」と考えたのです。

この被曝の噂と運動を聞き、多くの女性たちが立ち上がります。

そして、全米に、世界に広がり、ついに、32万本の乳菌を集め、立証することができたのです。

この女性たちの運動が、当時のケネディ大統領を動かし、子どもたちの被曝の事実を知ったケネディ大統領は、大気圏内核実験の中止を決断。1963年8月5日に部分的核実験禁止条約が調印され、大気圏内、宇宙空間、水中での核実験を全面的に禁止しました。アメリカは、そして、世界は放射能の脅威からひとまず救われたのです。

「危機は迫っているが、希望はある。それは、一人一人の市民の行動から始まる。」
そのことを教えてくれ、勇気を与えてくれる映画でした。(H)

◆ 南武線高架化事業と立ち退き問題

昨年からはまった南武線ワンマン運転によるダイヤの乱れが続いています。
運転手さんにとって、踏切が何カ所も続くことも、大きな負担となっています。

同時に、「開かずの踏切」による渋滞は、人も車も困ります。
その解決策として川崎市が進めているのが、南武線高架化事業です。

この事業は 2025 年 1 月に都市計画事業の認可を受け、本格着手されました。

<高架化事業などのスケジュール>

- ・事業区間は、矢向駅から武蔵小杉駅間の 4.5 キロメートル。
- ・2028 年（令和 10 年）までに、用地取得を終える。
- ・2039 年（令和 21 年）までに高架化を完成。
- ・2042 年（令和 24 年）までに隣接、交差する道路を完成する。

目的は、鉄道を高架化し、9 カ所の踏切を除去し、「開かずの踏切」問題を解決する。
踏切事故や渋滞を解消する。線路で分断されていた地域の一体化を進め、生活利便性の向上を図る、としています。

一方で、この事業で立ち退かざるを得ない方にとっては、人生設計を変えなければならない重大問題です。

対象になる幸区、中原区では、高架化事業で 239 件、関連道路の整備で 217 件が対象となり、地権者は 500 名を超えています。

私有財産を公共事業のために用いる場合は、憲法に基づき、適正かつ公平な補償を行うことが必要です。

本来は、「土地」対「土地」で補償すべきです。

しかし、今回、川崎市は、同種同等の土地はないとして、金銭での補償を原則としました。

そして、川崎市が委託した民間事業者（東電溶離株式会社）も加わり、個別の説明や相談、家屋調査などが始まっています。

昨年 7 月には、鹿島田駅近くに相談所が開設されました。

この相談所を利用した方から「担当者の説明がマニュアル的でよくわからない。」との苦

情も出ています。

<地権者の声の紹介>

・高齢者にとって、住み慣れた地域を出て、見知らぬ土地に移転することなど、とてもできない。ここで暮らし続けたい。

・引越しを迫られているが、そもそも高齢者が自力で家を見つけるのは難しい。具体的に提案をしてほしい。

・(借家住まいの方から) 物価の高騰で家賃も高騰している状況では、金銭補償で同程度の家賃で入れる物件を見つけるのは困難。

・我が家が立ち退きの対象になった。踏切渋滞や交通網の整備のために必要な事業だとわかっているが複雑な心境です。移転先の確保を強く望みたい。

<「住まいの権利」から考える>

日本共産党市議団は、1月22日に、和洋女子大学名誉教授の中島朋子氏を講師に、「誰もが安心して住み続けられるまちづくり」の学習会を開きました。

中島氏は、「住まいはなぜ必要か?」と問いかけ、3つの基本点を強調しました。

1, 人間らしく健康で文化的に生きる生活の基盤

2, 人と関わり、地域コミュニティを通して、生きる拠点

3, 地域社会の住民としての帰属証明

そして、「住宅」を失うと生活の回復は非常に難しくなる、と指摘しました。

南武線高架化事業関連で、金銭補償を原則に450件もの方に立ち退きを求めるとする川崎市の計画は、「住まいの権利」を守る視点からも大変に困難が予想されます。

地域での説明会で、川崎市は「基本的にはしっかりとご説明をさせていただいて、皆さまの理解とご協力のもと、土地をお譲りいただいています。」と述べています。

「土地収用法」をちらつけせることなく、行政としてベストを尽くすことを要望します。

(H)

★ お知らせコーナー

① スパイ防止法の成立に反対する市民集会

講師 青木理さん（ジャーナリスト）

2/7(土) 午後2時

会場 鶴見駅前ホール（加瀬の会議室）

入場無料

主催 自由法曹団神奈川支部、他

② 市民要求実現アクションの準備のためのオンライン交流会

2/10(火)18時～19時半

リアル参加は、川崎民主市政をつくる会事務所（ゆめホール 301号室）

[オンライン参加](#)

ミーティング ID: 247 279 0410

パスコード: 4JqYyP

③ 2026年第1回市民要求実現アクション

2/12(木)12時～13時

第1回川崎市議会（予算議会）開会日

主催 いのちと暮らしを守る川崎市民連絡会

④ ゆめシネマ「マヤ一天の心、地の心ー」

2/28(土)①9時 ②12時 ③15時

かわさきゆめホール

申込：044-433-3003(ゆめホール)

cinema@kawasakiyume.com

[予告動画](#)

⑤ かわさき市民アカデミー 2025年度SDGs講演会・ 緑地と文化

～夢を旅する ニューヨーク、ボストン、中国、ブータン、そして川崎へ

(公財)東京応化科学技術振興財団助成事業

3/14日(土) 13時30分～16時30分

第1部 講演 講師：石川幹子先生（東京大学名誉教授・国際文化的景観科学者委員会日本代表）

第2部 参加者とともに考える

参加費 無料

[申込み](#)

⑥ 原発ゼロへのカウントダウン in 川崎 集会&デモ

3月15日（日）12時開場

3時 文化行事

14時 メイン集会

15時半 デモ行進

会場は、中原平和公園

参加は無料

連絡先 川崎合同法律事務所 三嶋健 044-211-0121

[詳しくはこちら](#)

★編集後記

<選挙ラストサンデーのびっくり>

日曜日の朝、我が家のポストに24ページもあるこぎれいなパンフレットが投函されていました。

手に取ると、表紙は、濃紺のスーツを着た自由民主党高市早苗党首が微笑みながら右手を差し出している写真。

タイトルは、「日本列島を、強く豊かに。」そして「自民党・令和8年政策パンフレット」と記載。

中を開くと、再び、高市党首が白系のスーツを着て、にこやかに笑う見開き写真の下に。

「未来は与えられるものではなく、自らの手で切り拓くもの」

「日本の未来は明るい、日本にはチャンスがある、皆が自信をもってそう言える、そう実感できる社会をつくりたい」と、美辞麗句が続いていました。

高市人気に便乗して、総選挙を超短期間に設定し、国民に政策の争点を考える間を与えずに、議席の回復をねらってここまでやるのかと呆れると同時に、こんな仕掛けに騙されてはいけないぞ、と腹をくくりました。

それでも、このパンフレットを読んでいくと、実は、次々と本音が出てくるのです。

- ・原子力発電所の再稼働を進める
- ・継戦能力確保などを踏まえ本年中に安保三文書を改定
- ・防衛整備移転三原則の運用指針の5類型を撤廃（武器輸出の解禁）
- ・国家情報会議設置法（仮称）を早期に成立、官邸直属の国家情報局を創設
- ・対外情報機関を設置
- ・労働時間規制については、柔軟で多様な働き方の実現に向け、運用・制度の両面から検討を進める
- ・憲法改正の実現 以下の4項目を中心に①自衛隊の明記②緊急事態対応③合区解消④教育の充実
- ・旧氏の通称使用の法制化
- ・1割を目標に衆議院議員の定数を削減
- ・政治資金は「禁止よりも公開」

いやはや… このパンフは高市党首の写真集どころではありません。
戦争できる国・日本の設計図です。

国民がこんな「未来の日本」を選択するのかどうかを高市首相は、投票日までに丁寧に説明し、他の会派とも討論し、国民にも問うべきだ、と思っていたら、今度はテレビからの情報にびっくりです。

高市首相は10時からのNHKの党首討論を30分前にドタキャンし、代役を出演させたのです。

握手をしたときに腕を負傷した？それでも、同日の自民党候補の応援演説は、しっかりと5か所もこなしていた。

Xでは「日曜討論」「ドタキャン」「#高市逃げた」などが「トレンド入り」しました。

共産党の田村委員長は、「有権者に判断基準を示すためにも、党首討論を再設定してほしい」と述べました。

NHKさん、ぜひ、お願いします！ (H)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆